

日本最南端の ケーブルテレビに 時代の風はまだ吹いている。

日本最南端のケーブルテレビ局(ICT)。このユニークな局を一代で築いてきた男・保田伸幸さんの人生のつづき。
(構成+写真:天野昭/取材日:2015年5月31日、6月1日)



「ようこそ日本の楽園へ」と新しい観光デスティネーションづくりに精力を傾ける中山義隆・石垣市長(左)とまだまだ引退は許されない保田伸幸・ICT社長

通説「85メートル津波」に 襲われた石垣島

石垣市役所のロビーに3D図版「日本周辺の海底地形」が飾ってある。3D眼鏡でその地形図を見ると、日本列島から台湾あたりまで断崖絶壁の端に位置していることが、恐ろしいほどよくわかる。

石垣島は1771年(明和)に『大波之時各村之形行書』の記録によれば宮良村で「二十八丈二尺」(85.4メートル)の津波

に襲われた。大津波は石垣島を縦断し、多くの人命や家財を奪い、田畑は塩害などで約百年は耕作不能だったといわれる。

地震の被害はそう多くはなかったが、地層崩れで大津波が発生したという説が有力だ。

その大津波以来、この島では「防災教育」が根気よく続けられてきた。断崖地形図を貼り出しているのもその一環なのだろう。先の大戦時の沖縄の被害は甚大

であり、その傷跡が癒えることなく数多の軍事基地がさらに傷を拡大している。

石垣島は「南ぬ島」ゆえ、年にコメが2回は収穫できる。岩手県は1993年、深刻な冷害に襲われた。岩手県の農政部長(当時)高橋洋介さんが石垣市にやってきて冷害に強い種籾改良に成功した。高橋さんは岩手県北上市の出身だったこともあり、石垣市と北上市は2014年に友好都市となった。もちろん、「3.11」以降ではあったが、石垣市民は現在でも多くの